

1 . 地域の特性と課題

協議会では、「まち歩き」の実施や資料・データ等による現況把握、協議会員の日頃の生活実感などをもとに、阿佐谷・高円寺地域の特性と防災まちづくりの課題を以下のようにとらえた。

1 - 概況



(平成8年撮影)

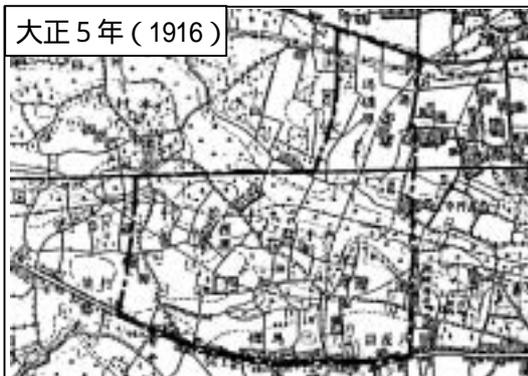
2 - 地域の成り立ち

本地域は、関東大震災の後、都心部からの移住者の増加により急速に市街化が進んだ。第二次世界大戦の空襲で高円寺は一旦焼け野原になったが、すぐに復興が進み、再び人口が急増して現在に至っている。

関東大震災前

- ・青梅街道沿い中心の街
- ・中野～荻窪間には、農地と雑木林が広がる
- ・線路（甲武鉄道）の北は軍用地

大正5年(1916)



阿佐ヶ谷・高円寺両駅開業

- ・関東大震災後、都心部から移住者が増加。杉並村の人口は、5年間で約4倍になる（大正9年 大正14年）
- ・大正11年に阿佐ヶ谷・高円寺両駅が開業

昭和4年(1929)



第二次世界大戦の空襲前

- ・昭和7年、杉並区誕生
- ・人口がさらに増加。20年間で5倍に（大正14年 昭和20年）
- ・高円寺は昭和20年5月の空襲で焼け野原に

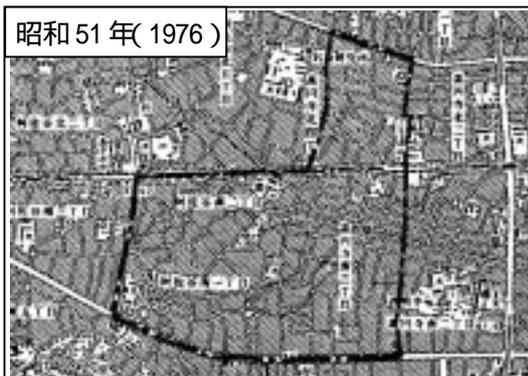
昭和20年(1945)



高度成長期以降

- ・中杉通り(昭和27年)、高南通り(昭和47年)が整備される
- ・街並み、商店街の整備が進む
- ・昭和38年、桃園川が暗渠化され、遊歩道になる

昭和51年(1976)



3 - 地域特性

防災に関するハード面（建物、道路、施設等の形に現れた部分）、ソフト面（個人の心掛けや人と人との関係などの形に現れない部分）、防災に限らないまちの魅力（誇り・愛着）や潤い（自然等）の3つの観点から、本地域の良い点と問題点をまとめると、以下のようになる。

防災のハード面について	
良い点	<p>防災施設・設備 ・まち中に防災設備が設置されている （大型消火器、軽可搬ポンプ、貯水槽、登録井戸等）</p> <p>道路・交通 ・周辺に幹線道路があり、延焼遮断帯となっている（早稲田通り、中杉通り、青梅通り、高南通り）</p>
	 <p>小型ポンプ</p>
問題点	<p>防災施設・設備 ・防災設備が貧弱で情報提供も不足している ...設備の規模、数、使いやすさ、メンテナンスなどが不十分 ...避難地等の案内板が少ない ...防災マップに登録井戸が表示されていない</p> <p>・避難地の数や建物の耐震性が十分でない（杉六小など）</p> <p>・大規模構造物の安全性に不安がある（高圧電線、中央線の高架）</p> <p>建物 ・個々の住宅や建物に危険なものが多い（老朽化や構造的な欠陥など）</p> <p>・木造建物が密集しており、延焼火災の危険性が高い</p> <p>・極端に問題な街区がある（建物の密集・老朽化、狭い路地や長い行き止まり道路など）</p> <p>・商店街が危険である ...商店の部分的な老朽化 ...商品や看板のせり出しや迷惑駐輪が緊急車輦の通行や避難の障害になる</p>
	 <p>震災救援所の杉六小は耐震性が不安</p>  <p>木造建物の密集</p>

問題点

道路・交通

- ・全体的に道路が狭く、複雑である
 - ...セットバック、隅切りが不徹底
 - ...長い行き止まりや一本道、階段部分なども問題
 - ...消防活動や地震時の避難が不安
 - ...幅員が狭く、延焼を止められない
- ・電柱、ブロック塀等は地震時に危険である
- ・通過交通が危険である
 - ...広い道路は通過交通が多く、危険
 - ...危険な交差点がある



電柱、電線、ブロック塀、自動販売機、看板...

防災のソフト面について

良い点

人・組織

- ・防災関連組織があり、活動が行われている（学校地域防災連絡会、消防団など）



学校地域防災連絡会の活動

問題点

人・組織

- ・既存の防災関連組織が十分に機能しているか疑問である
 - ...参加者の少なさと高齢化
 - ...災害時に動けるか不安である
 - ...組織間の横の連携が十分でない
- ・住民の防災意識が低い
- ・高齢者や乳幼児などの「災害弱者」が多数生活しているが、災害時の対応が十分に検討されていない
- ・若者等との日常のコミュニケーションが不足している

まちの魅力や潤いについて

良い点

建物

- ・閉静で良好な住宅地がある
 - ...庭や緑がある
 - ...低層・木造のまち並み
 - ...まち中が清潔に保たれている（ゴミが少ない）
- ・商店街が庶民的で活気がある
 - ...お店の人が気さく
 - ...品物が安い
 - ...若い客が多い
- ・居住地として人気が高い



緑の多い住宅地

良い点

- 道路・交通
- ・中杉通りが素晴らしい
(ケヤキ並木と沿道の建物)
 - ・2本の緑道(旧水路・暗渠、名前を公募したい)は快適な歩行空間である
...季節の花木が見られる
...静かでゆったり歩けるが、水の復活を
 - ・歩いて気持ちよい道がある
...緑が多く、沿道の建物も良い
...道路の幅員が広い
 - ・交通の利便性が高く、徒歩や自転車で生活ができる
- 公園・水・緑
- ・馬橋稲荷神社と長仙寺は地域の貴重な資源である
 - ・阿佐谷地区には緑が多い
(大きな古い樹木や生け垣など)
 - ・既存の公園はほっとできる場所である



名前を公募したい緑道



馬橋稲荷神社は貴重な資源

問題点

- 建物
- ・住宅の水準が低い
 - ・商店街に問題が見られる
...商品等のせり出しや迷惑駐輪のせいで歩きにくい
...場所によって活気がない
 - ・まちの環境や防災性が悪化している
(敷地の細分化や低質な住宅の建設)
- 道路・交通
- ・駅前や商店街等で迷惑駐輪がひどい
- 公園・水・緑
- ・公園の利用の仕方に問題がある
...ほとんど利用されていない公園がある
...迷惑駐輪が多い
...防災設備の設置の仕方が悪い
...樹木が伸び放題で暗い
 - ・高円寺地区に緑が少ない
 - ・公園が狭く、数も少ない



商店街は活気があるが、商品のせり出し等は問題



迷惑駐輪がひどい

4 - 防災の観点から見た地域の特性

以上の個々の特性をもとに、大地震等に対する防災の観点から、地域の特性をもう一度整理してみる。

阿佐谷・高円寺地域には、老朽化した木造建物の密集地区が何カ所もあり、災害弱者となる高齢者の居住地と重なる場所もあることから、地震時には、建物の倒壊等により多くの死亡者が出ることも予想される。

また、木造住宅が密集していることから、火災が発生すると延焼する危険性がある。

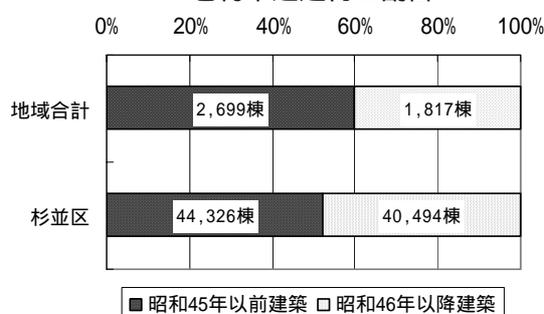
地域の両側には南北方向に商店街が広がっている。飲食店等は出火の危険性が比較的高く、また商店街の中には老朽化が進んだ場所も見られるなど、地震時にはどちらかと言えば危険な場所となっている。

地域内には狭い道路や行き止まり道路が多く見られ、地震時の消火活動や避難に支障をきたす可能性がある。

地域内を縦横に走る馬橋通りと新高円寺通りの2本が主要な道路となっているが、延焼遮断帯の役割を担えるほどの道路ではない。

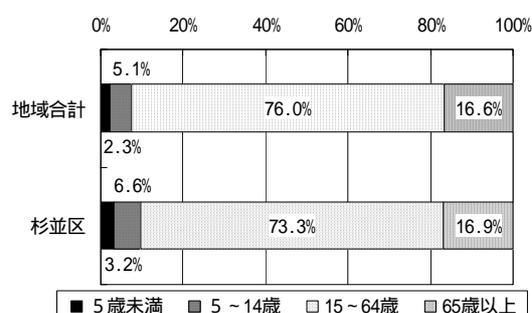
以上から、震災時に多くの火災が発生すると、防災設備の全般的な不足もあって、火災が地域全体に拡大する危険性がある。

老朽木造建物の割合



データは平成8年

年齢別人口構成



データは平成13年

道路基盤の状況



5 - 防災まちづくりの課題

以上の特性や問題点を踏まえて、本地域の防災まちづくりの課題を以下のとおりとする。

大地震が起きても人命が守られ、かつ延焼火災が起きにくいまちにすること

- ・大震災を想定したまちづくりでは、大地震が起きても人が死なないようにすることが最重要の課題である。
- ・そのためには、個々の建物やブロック塀等の耐震性を高めること、住民が安全に避難できるように避難路や避難地を確保することなどが必要である。
- ・また、本地域は延焼火災がたいへん起きやすい場所であると評価されている。震災時には十分な消防活動は期待できないことから、火事を出さないこと、もし火事になっても初期の段階で住民が協力し合って消火の努力をすること、そして、まちそのものを延焼しにくい構造にすることなどが課題である。
- ・本地域には高齢者や乳幼児など「災害弱者」と呼ばれる人達も数多く生活しており、災害時の人命確保のためには、常に災害弱者への対応を検討しておかなければならない。

防災だけでなく日常の生活環境の面でも暮らしやすいまちを作ること

- ・防災まちづくりは防災を主な目的としているが、まちづくりがまちの姿を少しずつ変えていく側面を持つ以上、日常の生活環境にも配慮する必要がある。災害に強いまちにすることはたえず意識しながら、同時に生活環境を改善していくような取り組みが求められる。
- ・例えば、まち中に緑や水辺を増やしていくこと、住宅地や商業地を今以上に快適で魅力的な場所にしていくこと、住民の関心が高く防災とも関連の深い駐輪問題や商店街のせり出しの問題を解決していくことなどが必要である。

地域の良さを生かす一方、まちを悪化させる流れに対応すること

- ・災害に強いからといって、すべての建物をコンクリートのビルに変えてしまうことが望ましい選択であるとは考えられない。木造・低層を主体とする住宅地の環境、商店街の賑わい・庶民性などは、目に見えない文化・伝統なども含めてこの地域らしさを形作っている貴重な財産であり、それらをできるだけ失わず、生かしていくような形で防災まちづくりに取り組んでいくことが必要である。
- ・また住宅地では、敷地の細分化による建て詰まり、緑の減少など、次第にまちの環境や防災性を悪化させていくような現象も見られるため、住民が自らそれらを防止し、安全・良好な環境を維持していくことも重要な課題である。

重要なところ・できるところから早急・確実に実現していくこと

- ・この地域の防災性を完全なものにするためには多くのことをしなければならず、実現には長い時間と多くの費用・労力がかかると考えられる。したがって、防災まちづくりの進め方としては、防災設備の設置や防災関連組織間の交流のように、地域防災に効果が

ありかつ比較的容易に実現できることから、一步一步着実に形にしていくことが重要である。

- ・ そのように具体的な形にしていくことによって、地域住民の防災意識が高まる効果も期待でき、また行政に対する住民の信頼感も高まることが期待される。
- ・ 一方、電線の地中化のように、費用等の問題で実現は困難でありながら、防災や生活環境の面できわめて重要な取り組みもある。そのようなものに関しては、すぐに実現するのは難しいにせよ、実現に向けた検討を着実に進めていくことが必要である。

住民合意を基本としたソフトの取り組みを重視すること

- ・ 防災まちづくりにおいては、まちの物的な環境を変えていくハード面だけでなく、個人個人の日頃の備えや、災害時の初期消火、救助、避難といった対応の方法など、目に見えないソフトの部分がきわめて重要である。ハードな整備も、防災対策を必要とする住民の意識があってはじめて進むものであり、すべては「人づくり」から始まると言っても過言ではない。
- ・ そのため、住民一人一人の防災意識を高めるような取り組みや、防災関連組織を中心とする既存組織の活性化・相互の連携など、個人や組織を災害時に十分対応できるものにしていくことが課題である。
- ・ また、災害はいつどこで発生するか予測ができない。仮に昼間この地域で災害が発生すれば、主婦、学校の児童・生徒、商店街の従業者や来街者などが対応の主たる担い手になることから、彼らが実際に活躍するようになるための方策を考えていくことも必要である。
- ・ 防災まちづくりは、住民（企業）と行政が協力し合いながら進めていくものであるが、その方向性は基本的にはこの地域の住民が決めていくものであると考える。ハード・ソフトを問わず、防災まちづくりのあらゆる場面において、住民参加・住民合意を基本としていくことが課題である。